

授業科目名	担当教員名	授業実施日	※
学問の面白さを知る	奥村隆平	6月5日(火)	
学生番号	学部・学科	学年	氏名
05075006-2	情報文化学部 社会システム情報学科	1年	伊藤 維希

6月5日の多和田真先生の「経済学における現代の国際貿易論」を受講して正直な話自分はこれまであまり経済学に興味がなく難しい計算が多いという印象だけが強かったが、多和田先生の話も聞いて経済学の面白さに気付いた気がした。イギリスとポルトガルのウールとワインの比較優位の話は簡単な数字を用いて説明して下さったため非常にわかりやすかった。日本で工業品が相対的に多く生産されるのに対しアメリカで農産物が相対的に多く生産される理由を僕は土地柄や民族の特質からしか考えたことがなかったため、先生が資本や労働力という観点から説明なさったときには、これが経済学的なものなのかと感心した。産業内貿易の話では、貿易を行うことによって国の持つ製品の量は変わらなくともバリエーションが多くなるということだった。お互い金銭的な損得なしでバリエーションのみが増える。特に食物などは同じものでも気候や土地によって随分味が違ってくるため人間の生活を豊かにするためにもっと多くの国と活発な産業内貿易が行われていくといいと思った。講義の中で最も面白かったのは不完全競争産業の話だった。他国の企業を意識して貿易が行われてもいないのに製品の価格だけが下がっていくというのは企業間の掛け合いのようなものが感じられた。航空産業は実際に起こったというのを聞き詳しく調べてみたいと思った。多和田先生の講義では難しい計算式が一切使われなかったため、非常にわかりやすかった。講義を聴いて経済学にも興味が増え、フー-

経済学に関する本を読んだり、機会があれば経済学の講義も聴いたり
してみたいと思う。